

私たちと大和川

～寺川～

※写真は談山神社「屋形橋」

第10回発刊の「私たちと大和川」では、奈良盆地南部を流れる大和川中流部の支流「寺川（てらがわ）」を取り上げ、川の様子や周辺のおすすめスポットなどについて紹介します。

・水系／一級水系大和川 ・全長／23km ・流域面積／70平方km

1. 「寺川（てらがわ）」の概要

寺川は、奈良県桜井市鹿路（ろくろ）の旧鹿路トンネル付近に発します。県道37号、通称多武峰街道（とうのみねかいどう）沿いに北流、桜井市街地の南で西に転じ桜井駅付近を巻くように北流した後、桜井市川合で「粟原川（おおぼらがわ）」をあわせてからは北西に流れを変え、桜井西中学校付近を通過、橿原市に入り運転免許センター、国道24号を越えた橿原市十市で「米川（よねがわ）」をあわせ北上します。

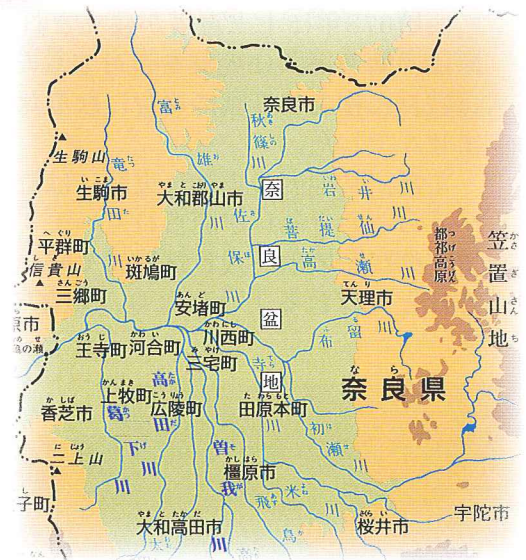
その後、国道24号と並走するよう田原本町を北流し、田原本町鍵あたりから北西に向きを変え三宅町をかすめた後、川西町に入ります。川西町結崎、梅戸を通過し、川西町吐田（県浄化センター西）で大和川左岸に注いでいます。

寺川の上流部は、激しく岩を噛む溪流で谷は深く所々荒瀬が見られます。多武峰では談山神社（たんざんじんじゃ）参道の屋形橋が架かり、風情のある涼しげな景色を作り出しています。桜井市倉橋付近では川幅も広がり、河底の石も減ってきます。この辺りは飛鳥時代、崇峻天皇（すしゅんてんのう）の倉梯宮（くらはしのみや）がありました。崇峻天皇は推古天皇の前の帝で政争の果て蘇我馬子に暗殺され、倉梯宮も炎上したことから、残念ながら宮跡は定かではありません。

橿原市の東竹田町付近になりますと一機に平坦な農地が広がり、三輪山や大和三山が見渡せます。この辺りはその昔は大伴氏の領地であり、竹田原橋の橋標には大伴坂上郎女が竹田の情景を都の佐保の家にいる娘（大伴家持の妻）に送ったとされる万葉歌「うち渡す竹田の原に鳴く鶴の間無く時無しわが恋ふらくは」が刻まれています。

米川と合流してからは、田原本町、川西町と続いて奈良盆地の市街地を流れることから、上流部に比べると水の汚れが目立ちますが、地元住民の方や流域の関係者の方々の努力により浄化が図られています。

寺川に限らず、地域住民の方々の意識と協力が、大和川の浄化につながっています。



県内大和川地図



大和信用金庫

<http://www.yamato-shinkin.co.jp/>

2. 周辺の歴史スポット

桜井市鹿路から磯城郡川西町吐田へと流れる寺川流域では、古代から日本の中心地として文化が栄え、現在でも様々な史跡や歴史スポットが残されています。今回はその中から3ヵ所、おすすめの歴史スポットを紹介します。

① 談山神社 (たんざんじんじゃ)

談山神社は桜井市の多武峰 (とうのみね) にある神社で、本殿には「大化改新(たいかのかいしん)」で有名な中臣鎌足(なかとみのかまたり) [後の藤原鎌足] が祀られています。

飛鳥の法興寺(今の飛鳥寺)で蹴鞠会(けまりえ)があった際、後の天智天皇である中大兄皇子(なかのおおえのおうじ)と鎌足が出会い、西暦645年、二人は多武峰の山中に登って「大化改新」の談合を行ったそうです。後にこの山が「談い山(かたらいやま)」「談所ヶ森」と呼ばれたことが、談山神社の社号の由来となっています。また、春と秋にはこの時の出来事になぞらえ蹴鞠祭が開催されています。

神社は、藤原氏の祖である鎌足の死後、その亡骸を葬るために西暦678年に十三重塔が建立されたことが発祥で、その後藤原氏の繁栄と共に発展を遂げましたが、室町時代には「多武峰合戦」と称される戦の舞台になるなど戦乱が絶えることはありませんでした。

また、敷地内の摂社・東殿には鎌足の奥方である鏡女王(かがみのおおきみ)が祀られています。鏡女王は万葉の歌人・額田王(ぬかたのおおきみ)の姉で、情熱的な恋の歌を残した歌人ですが、女性として幸せな人生を送ったことから、いつしか東殿は恋神社と呼ばれるようになり、現在では恋愛成就を願うパワースポットとしても注目を集めています。



十三重塔

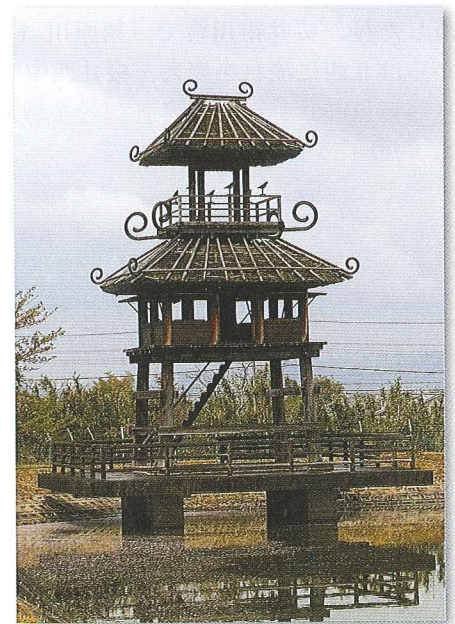
② 唐古・鍵遺跡 (からこ・かぎいせき)

唐古・鍵遺跡は、初瀬川と寺川に挟まれた磯城郡田原本町の唐古から鍵にかけて広がる弥生時代に栄えた環濠集落(かんどうしゅうらく)遺跡です。環濠集落とは、周囲に堀をめぐらせた集落のことで、水稻農耕とともに大陸からもたらされた新しい集落の形態と考えられています。集落の周りには環濠が幾重にも巡らされ、外濠跡を含めた全体での遺跡面積は約42万平方メートルと全国的にも最大級の大きさです。

遺跡からは、大型建物の跡地や青銅器鑄造炉跡の検出、木製品、石器、祭祀遺物、ヒスイ勾玉など、弥生時代の遺物の殆どが出土しており、これらの事実から唐古・鍵遺跡は、近畿地方の盟主的な集落であったと考えられています。

この遺跡は、平成3年に『楼閣(ろうかく)』の描かれた絵画土器が出土されたことにより一躍世間の関心を集めました。魏志倭人伝(3世紀)に、卑弥呼の宮室の描写「楼観、城柵をおごそかに設け…」という記述があった為、『邪馬台国』の楼閣と結びつけられ、マスコミに大きく報道されたのですが、現在では様々な観点から、唐古・鍵遺跡=邪馬台国説の可能性はかなり低いとされています。この楼閣は現在復元され、遺跡のトレードマークとして、現代の私たちを楽しませてくれています。

これら多くの出土品は、田原本町阪手にある唐古・鍵考古学ミュージアムに展示されています。



復元楼閣

③島の山古墳 (しまのやまこふん)

島の山古墳は、寺川と飛鳥川とに挟まれた磯城郡川西町のなだらかな高地に位置する全長約200メートルの前方後円墳です。4世紀末～5世紀初頭に作られたと推測され、また付近には約20の古墳が存在しますが、その内容はあまりわかりません。

埋葬者は不明ですが、平成8年の調査で夥しい数の石の腕輪、ネックレス、銅鏡が発掘され、通常はその数が埋葬者の地位の高さに比例することから、島の山古墳は一躍注目を浴びることになりました。

埋葬者については、現在2つの説があります。1つは大化改新で暗殺された蘇我入鹿（そがのいるか）説、もう1つが応神天皇の後である糸井媛（いとひめ）説です。

蘇我入鹿説には特に根拠はないようですが、地元では古くからそう伝わっているそうです。しかしながら、入鹿の暗殺場所や首塚等のすべてが飛鳥に存在していることに鑑みるとその可能性は低いと考えられ、更なる調査が待たれます。

一方、糸井媛説ですが、こちらには根拠が2つあります。まず1つ目が古墳の西北側の隣に、『比売久波神社（ひめくわ）神社』がある点です。『比売久波』は『姫桑』とも記し、桑葉をご神体としていた養蚕の神社で、現在の結崎に位置する糸井家縁の糸井神社と関連が深いと考えられています。2つ目が、前方部の古墳の出土品に武器が殆ど無く装飾品ばかりであることから、前方部には女性が埋葬されたのではないかと考えられている点です。男性が後円部の中心的な埋葬施設に、女性が前方部に葬られていると考えられることから、女性が糸井媛、男性が糸井媛の父の嶋垂根との説があり、蘇我入鹿説と比べると説得力があります。

いずれにせよ島の山古墳は、大和盆地の河川が合流する場にあり、かつての交通の要所であったことから、大和川の水運を支配した古代豪族に関わるものと推測されています。古墳内に入るとはできませんが、地元のみなさんの憩いの場所となっています。



島の山古墳



比売久波神社

- <参考文献> ・ <http://agua.jpn.org/yamato/tera/tera.html>
・ <http://agua.jpn.org/yamato/tera/oubara.html>
・ <http://agua.jpn.org/yamato/tera/yone.html>
・ <http://ja.wikipedia.org/wiki/>
・ <http://ossaka.jimdo.com/>
・ <http://ja.wikipedia.org/wiki/>
・ <http://www.kashikoken.jp/from-site/sima.htm>

主な寺川支流

①栗原川（おおばらがわ）

桜井市と宇陀市の境、女寄峠に発し、国道166号に沿って西流し、桜井市外山（とび）交差点北を通過後、桜井市街地の北を流れ、桜井市川合の寺川・幸玉橋手前で寺川に合流します。

途中の忍阪（おっさか）地区では、県下最大で四大溜池の一つである倉橋溜池（くらはしためいけ）からの越流水が流れ込んでいます。倉橋溜池は干ばつ対策として昭和10年頃、地元有志により発案された農業用溜池ですが、現在は防災ダムとしても整備され、また周辺は公園として市民の憩いの場になっています。



左 栗原川・右 寺川

②米川（よねがわ）

桜井市高家（たいえ）の山中に発し北流、安倍小学校の東を通過し、桜井市橋本からは北西に向きをかえ、橿原市醍醐町で北転、耳成山の東側を巻くように大きく西に曲がります。

橿原市新賀町から再び北に転じ、国道24号線沿い進んだ後、橿原市西新堂町と十市町の境で寺川に合流します。

下流部にある耳成山は、言わずと知れた大和三山の一つで、藤原宮の真北に位置します。標高139メートルの円錐の形から、余分なところがない「耳がない」と名付けられたそうです。また、麓にはかつて「口無しの井戸」「目隠し川」があったとされており、藤原京を人体と見立て耳成山をその頭部としていたとの説もあります。

寺川は磯城郡川西町吐田で大和川に合流します。その後「曾我川」「富雄川」「竜田川」など奈良盆地内の大半の河川を合わせ、亀の瀬溪谷を抜け大阪府へ流れています。



左 寺川・右 米川



左 大和川・右 寺川



大和信用金庫では「『Next Generation ~未来へ~』
次世代のために、私たちは歴史と環境を大切にします。」
をテーマにCSR活動に取り組んでいます。

お問い合わせ：大和信用金庫 CSR委員会事務局 0744-42-9001